

2012年8月よりカリフォルニア大学バークレー校のPhD過程に所属しています、森です。ふと気づくと渡米してから4年弱が経過していました。毎度ながら粗末ですが近況報告をさせていただきます。

1. 研究について

ぼんやりとした結果的なものができてから約1年経過し、その結果について3月にあった物理学会で発表してきました。およそ一週間ある学会期間中の最終日が自分の発表日だったので、最後まで気が休まらなくソワソワしっぱなしだった事が残念でしたが、LIGOによる重力波観測についてなどキャッチーな講演もあり総じて楽しめたような気がします（錯覚かな）。

新しい研究プロジェクトを始めるために、共同研究をする候補の研究グループに対してプレゼンを行いました。教授にプレゼンをしなければいけない旨をかなり直前に告げられ、開始20分前に完成した（完成させた）ボロボロのプレゼンをしたところ、意外とめでたくコラボレーションが決まりました。政治的な何かを感じます。さて、この新しいプロジェクトについての測定のために、共有実験装置のマシントイムをとる必要があります。そのために大体半年に一度プロポーサルを書く必要があるのですが、毎度毎度、本当に毎回毎回、書き終わった後にアメリカ人の英語チェックを受けると、真っ赤に直されたモノが返ってきます。一体いつになったら僕は一人でマトモな文章を書けるのでしょうか、精進するしかないのはわかっているもなんだか自分のセンスの無さしい加減凹みます。一個何かうまくいったと思ったら、5、6個うまくいかない事が出てきて、なかなか人生難しいですね、次生まれ変わったら金持ちの家で飼われている猫になりたいです。

2. 英語について

渡米4年弱にして、ついに認めますが、本当はかなり前から気づいていたのですが、僕の名前である亮（りょう）、これ英語じゃないっぽいんです。英語じゃない、というのは、「りょ」という発音が英語にはないということで、RYOというスペルを見ると、ネイティブは「うりーおう」か「うらあいお」とよみます。英会話において一番最初に出てくる超基本である”自己紹介”で何度も何度も躓いてきたわけですが、もういい加減名乗った後に聞き返されることも発音を

正すことも説明することも全てめんどくさくなってきました。最近では自己紹介の時点で自ら「ハイ！アームウリオ！」と元気よく名乗り、見事にアイデンティティー崩壊させています。発音しやすい名前か否かという事が一見どうでもいようで結構大事な事だなあ、と身を持って痛感しました。カッコいいイングリッシュネームなどを勝手につけるのもアリなのかもしれません。もっとも僕の場合は既に渡米後四年弱経過してしまい、今更急に自分のことを「モーゼ」（例）など名乗り始めても「なんかウリオが急にモーゼとか名乗り始めてんですけど、ウケるんですけど（笑）」や「どうした（笑）アイツ（笑）」みたいに影で笑われるんじゃ、など考えただけで恐怖を感じるので不可能ですが（もちろん混乱を招くという意味でもやりませんが）。何事もタイミングって大事ですね（？）。

3. 最後に（雑感）

ふとした瞬間に不思議に思うことが多々あります。先日、NBAのスーパースターであるコービーブライアントが引退して月日の流れを感じました。そうか、僕はもう中学生じゃないし（当たり前ですけど）、コービーもずっとプレーし続けるわけじゃないのか、と。気づいたら僕はもうかなりのアラサーになっており、コービーも引退していました。シミジミと少し寂しい気持ちになりましたが、次に感じたのは恐怖です。「こわ！！！オジさんじゃないか！大丈夫か自分（しかも自覚なしの心は自称中学生のオジさん）！！」と。みんなどうやってこの現実と向き合っているのでしょうか、不思議です。

他の留学生（短期留学、学位留学問わず）を見ていると、なぜか「日本に興味あるアメリカ人」のようなジャンルの友人が一人くらいはできています。僕にはそういう友人はできないし、出会ったこともないです。日本文化に興味津々なアメリカ人、一体みんなどこでそういう友人をゲットするのでしょうか、不思議です。渡米前に、[日本の事を英語で説明する]みたいな本を購入しました。

「これでスタディーしてジャパニーズカルチャーについてアスクられたら（尋ねられたら）ファニーな感じでアンサって（答えて）、フレンド 100 人ゲットだぜ！」という目論見の元。そんなアツい想いを乗せつつ購入してから 3 年半くらい経過しましたが、一回も使った事ないし、そろそろ廃棄しようかと検討中です（あの頃のアツい想いと一緒に）。

ある日、中々使うチャンスがない実験装置を使う機会があったため、早朝 4

時にラボに向かい、準備をせさせとしていたところ、直前まで装置を使用していた某大学の某助教授の方が見事に装置を破壊しました。僕のマシンタイムは全て無駄になり、怒りや絶望や憎しみや殺意が湧き立ちました。後日、そのデストロイヤーから謝罪メールが届いたのですが、本当は殺意すら抱いていたのですが超ポジティブな優しい優しい文面の返事を書いていました。なにこれ一体（このポジティブな優しい）おまえは誰なんだ、とセルフツッコミをするレベルの優しさでした。この上っ面の優しさ、一体どこからきたのでしょうか、不思議です。これがコミュニケーション能力ってやつでしょうか。

と、日々様々な奇怪な現象に見舞われますが、きっと人生不思議なことがたくさんあったほうが飽きずに楽しく生きれそうですね（ものすごく雑なまとめですね、すいません）。